

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	60	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> 医療保険制度の概要を理解している。 各項目の算定ルールをよく理解し、根拠に基づいて解答できている。 上記二点の理解度を図る問題を作成し評価する。	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
	学修成果	小テスト	30	①	✓	小テスト及び作成した診療報酬明細書（レセプト）の提出。 出題範囲は各時点までの授業で学習した内容とする。
				②	✓	
				③	✓	
				④	✓	
平常評価		レポート	0	①		
				②		
				③		
				④		
平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①			
			②			
			③			
			④			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> 受け身の姿勢ではなく、自発的に取り組むことができる。（主体性） 自分の力（知識）で点数算定できる。（実行力） 自分の苦手分野を見つけ自覚することができる（課題発見力） 目標を達成する（復習と予習）ための計画を作成し、常に評価と見直しを行うことができる。（計画力） 自分に取り組んでいることに好奇心をもち、いろいろな観点から物事をとらえることができる。（創造力） 人との違いを受け入れ、相手の立場で物事を考え理解できるよう努力することができる（柔軟性） 遅刻、無断欠席など、学修意欲の欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。欠席した場合は欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。（規律性） 	
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
○小テスト・筆記試験の結果において概ね90点以上の点数となっていて、授業態度も良好であればS（秀）。 ○小テスト・筆記試験の結果において概ね80点以上の点数となっていて、授業態度も良好であればA（優）。 （診療報酬請求について全体的にきちんと理解がされて、詳細までレセプト作成ができるレベル）	○小テスト・筆記試験の結果において概ね70点以上の点数となっていて、授業態度も良好であればB（良）。 ○小テスト・筆記試験の結果において概ね60点以上の点数となっていればC（可）。 （診療報酬請求事務の概略の事項が理解されていて、基本的なレセプト作成ができる）

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	請求事務の概要 ・請求事務全体のしくみを学習する。	講義 医療機関内での請求事務の流れとしくみを確認、全体にフィードバックする。	請求事務全体のしくみが理解できた。請求事務全体のしくみを理解し、説明することができる。	(復習) テキストで請求事務について再確認すること。 (予習) テキストの医療保険のしくみの図を見ておくこと。	180	主体性 傾聴力 規律性
2	医療保障制度 ・制度全体を学習する。	講義 PCと口頭にて授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	医療保障制度の種類とその概要を理解し、説明することができる。	(復習) 医療保険の種類を覚えること。 (予習) テキスト2章を読んでおくこと。	180	主体性 傾聴力 規律性
3	初診・再診 ・診察料の算定に関する原則を学習する。	講義 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	初診料・再診料の算定方法を理解し、説明することができる。	(復習) テキストの練習問題を解くこと (予習) テキスト2・3・4章を読んでおくこと。	180	主体性 傾聴力 規律性
4	医学管理・在宅 ・各管理料の原則について学習する。	講義 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	医学管理・在宅の種類とその特徴について理解し、説明することができる。	(復習) テキストの練習問題を解くこと (予習) テキスト2・5章を読んでおくこと。	180	主体性 傾聴力 規律性
5	投薬 ・投薬料の算定に関する原則を学習する。	講義 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	投薬の区分と算定方法を理解し、説明することができる。	(復習) 五捨五超入の計算をマスターすること。 (予習) 投薬のレセプトの書き方を見ておくこと。	180	主体性 傾聴力 規律性
6	投薬 ・内服薬・屯服薬・外用薬の違いを理解し、レセプトの書き方を学習する。	レセプト作成 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	レセプト記載の特徴について理解し、正しい記載と説明をすることができる。	(復習) テキストの練習問題を実施すること。 (予習) テキストレセプト記載ルールブック(診察料～投薬)を見ておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 ストレスコントロール力
7	復習 ・前回まで内容の理解を深める。	小テスト PCと口頭にて、復習内容の質問に記述で答えた後、全体にフィードバックする。	診察料～投薬までの算定方法を理解し、説明することができる。	(復習) 出来なかった項目を再確認すること。 (予習) テキスト2・6章を読んでおくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 ストレスコントロール力
8	注射 注射の算定に関する原則を学習する。	講義 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	注射の種類とその算定方法を理解し、説明することができる。	(復習) テキストの練習問題を解くこと。 (予習) テキストレセプト記載ルールブック(診察料～注射)を見ておくこと。	180	主体性 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	復習(診察料～注射) 診療報酬算定(診察料～注射)を理解し、正しいレセプトの記載方法を理解する。	レセプト作成 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	各項目における基本的事項と特徴を理解し、正しいレセプトの作成と説明をすることができる。	(復習) 実際にレセプトを作成すること。 (予習) テキスト27・8章を読んでくること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 ストレスコントロール力
10	処置・リハビリテーション 処置とリハビリテーション算定に関する原則を学習する。	講義 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	処置・リハビリテーションの基本的事項を理解し、説明することができる。	(復習) テキストの練習問題を解くこと。 (予習) テキスト32・3章を読んでくること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 状況把握力 ストレスコントロール力
11	手術・麻酔 手術・麻酔の算定に関する原則を学習する。	講義 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	手術・麻酔の基本的事項を理解し、説明することができる。	(復習) テキストの練習問題を解くこと。 (予習) テキスト31章を読んでくること。	180	主体性 傾聴力 規律性
12	検査 検査の算定に関する原則を学習する。	講義 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	検査の種類と算定方法を理解し、説明することができる。	(復習) テキストの練習問題を解くこと。 (予習) テキストレセプト記載ルールブック(診察料～検査)を見てくること。	180	主体性 傾聴力 規律性
13	復習(診察料～検査) 正しい診療報酬算定(診察料～検査)と同時に正しいレセプト記載方法を理解する。	レセプト作成 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	基本診療料(診察料)～検査までの基本的事項と特徴をを理解し、正しいレセプト作成と説明をすることができる。	(復習) できなかった事項を再確認すること。 (予習) テキスト34章を読んでくること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 ストレスコントロール力
14	画像診断 画像診断の基本的事項を理解する。	講義 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	画像診断の区分とその種類を理解し、説明することができる。	(復習) テキストの練習問題を解くこと。 (予習) テキストレセプト記載ルールブック(診察料～画像診断)を見てくること。	180	主体性 傾聴力 規律性
15	これまでの復習 画像診断までの項目に関する内容の理解を深める。	レセプト作成 PCと口頭にて、授業の開始時に前回授業内容を確認、全体にフィードバックする。	レセプト作成の基本的事項と特徴を理解し、正しいレセプト作成と説明をすることができる。	(復習) テキストの練習問題を解き、実際にレセプトを作成すること。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 ストレスコントロール力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力